

三小 育友会報

発行 育友会
編集 文化部

三十七年度をかえりみて

会長 藤田実

全く子どもを世話になりとおしの私でしたが、本年度はじめて会長としての重責をいたしましたので、今の教育を勉強する機会でもあるし、とにかく、会員の皆様のお力添えでできるだけ努力してみようという決意を新たにスタートいたしました。

他のいろいろな会合、集会には経験もあるし、空気もわかっています。育友会という組織や集まりの純粋さ、真剣さ、あたかも十分に滲らせていただきました。各専門部の方々の頭の下がるような真剣な討議、役員会、町内会でのわかあさん方の美しい子どもの教育への愛情、三小の今日ある原動力を、そこに見出しました。

会長としての力量不足を痛感への飛躍をはかりたいものです。することばかりです。子どもの最後、本会常任委員として学力の問題、生活の問題、性行、保健副部長として、永年育友会非行の問題、各町内の問題、学のため、尽力いただきました。校の施設の問題等、その都度起内島一准さん、他界を心からこります。先生方や会員の皆様方、より望ましい方向へ解決していただいております。

今後とも、伝統ある三小、その室である子どもの幸福をゆげし、一年間をそれぞれの立場で、自己反省をまじくして、将来



昭和三十七年度の終りに際して

菅藤恒保

当校に着任して早々三年、初年度は老朽校舎改築に伴う校地の整理と、天皇春迎準備に明け暮れ、新任の一年をゆくり観察する暇もないような日々でした。

二年目に入って陛下をお迎えし、引き続き理科の研究発表会を終わり、重責をおろして安堵しているうちに過ぎ去ってしまいました。三年目は新学期早々島民体育祭の諸経営に打ち込ままうという夢も果たされず、いまに送る一沫の寂しさが残っているようである。

学芸会を終わって

村田教頭

昨年新校舎落成を記念して久しぶりに、しかも全児童出場という新しい方法で学芸会を実施いたしましたところ、各方面に大きな反響をよび、好評を博しましたので、本年も引き続きこの方法で実施することに決し、去る二月二日に無事終了することができました。

子どもたちも、おとうさん、おかあさんがの前で発表するというので一生懸命練習しました。た、剣に、音楽に、あるいはよびかけやリズムに、皆の者が協力しあって練習しました。毎日の練習の中に、当日の真剣な演技の中に、ふだんの教科学習では得られぬ体験をし、また、一僕にも、私にも、やれば何でもできるんだという自信も深めたと思います。

諸行事が、PTAも含めて新年度早々に企画審議され、その計画によって着々進められることである。私が初年度担任して何もうつかり、呆然としていた時各種部会が持たれ、それが融合されて年間計画ができた。行なった感想は、今なお私の脳裏に深い印象として残っている。愈々第四年度の新年度を迎えるに当たり、いつものことながら、来年度こそはの感一人である。地域の事情も、学校の中も子どもも、ますます概略はつかめた。後日、具体的な計画に申せば、眼玉の耀いたかし、きびきびとした動作をする元気な、真剣な学校生活の場を造り上げた、と願うものである。

効果をあげましたし、遊樂会等など進歩のあとが目立っています。育友会のおかあさん方の合唱も日頃の練習の成果を十分発揮していただき会を引きました。

今後よりよい学芸会を進めていきたいと思います。全員出場では各学年とも相当苦勞をしていますが、教育的な面から考えれば、やはりこの方法でやらねばなら

ないとの結論に達しました。そのほか会場の問題、衣裳のこと、舞台効果や、マイクの要不要などから、毎年出場種目や、役割りを交代させようなどの細かい点にまで検討を加え、改善していろいろと考えています。

最後に、おとうさん、おかあさん、おともたちゃんに見に来ていただけたいと思いました。何十年振りという寒さの中で一生懸命練習した子どもたちが少し拍子抜けがしたのではないかと、思っていると、一沫の寂しさを感じ、なぜもっとたくさん来ていたか、けなかつたのだろうかと考えさ

冬休みの反省

一月九日学級児童会を開き、学年別に集計しました

冬休みを立派に楽しく過ごすため、休み前、学級児童会を開き、申し合わせ事項をいたしましたが、果たして、それがよく実行できたか、どうか、別紙図表を、ごらんになると、よくおわかりだと思えます。

来年の冬休みは、この反省資料をもとにして、よりいい過ごし方をさせたいものです。

冬休みについての

- ・楽しんで、おもしろかった。
- ・遊ぶひまがないほどいそがし

せられました。寒い時期でもおりましたし、日曜ならどうだったろうか、会場のせいか、時間が長すぎたのだろうかなどいろいろと反省しています。この次からは、会場にあふれるおとうさん、おかあさんが、子どもたちをばげまし、力づけ、心から拍手をおくってくださったなら、寒さも練習の苦勞もすっかり忘れ、楽しかった学芸会としての思い出だけが残るのではないかと思います。寒い中、長時間にわたってご参観いただきました皆様、厚くお礼申し上げます。

生活部

- ・寒くて家の中ばかりいて、たいくつだった。
- ・学校そらじの始まる時刻がはやすぎる。
- ・夏休みをみじかくして、冬休みは長くしたがよい。
- ・テレビを見る時間は、あまり制限しないがよい。
- ・家が多忙で、そわそわして勉強がしにくかった。
- ・その他、

- ・天気がわるかったので、楽しくなかった。
- ・寒くて家の中ばかりいて、たいくつだった。
- ・学校そらじの始まる時刻がはやすぎる。
- ・夏休みをみじかくして、冬休みは長くしたがよい。
- ・テレビを見る時間は、あまり制限しないがよい。
- ・家が多忙で、そわそわして勉強がしにくかった。
- ・その他、



「PTA文庫」だより

文化部

この前の会報(第二号)で、PTA文庫のご紹介をしました。が、その後も一向に利用されてない、とのこと、大変残念に思います。

そこで、PTA文庫の現況とその問題点を報告して、もっと気軽な、そしてもっと盛んに利用していただくには、どうしたらよいか、こころしに考えてみたいと思います。

現 状

- ・現在の冊数▽ 小説・文学・歴史・教育や趣味娯楽など、あらゆる方面にわたっての本が、約三〇〇冊ありそろっています。
- ・利用状況▽ 三十六年の貸し出し人数は一一名、うち育友会関係四名、貸し出し冊数二〇冊、三十七年の貸し出し人数五名、うち育友会関係はゼロ、貸し出し冊数九冊、という大へん低調な現況で、これではせっかくの宝も持ちこたれません。

問題と対策

- ・問題▽ そので、どうしてもその二意見をきいてみました。

それによると、以下のようなことが多数のご意見でした。

1. どのような本があるかわからない。
2. どのように借りるのかわからない。
3. 本人が借りに行かねばならないので、つい、借りるのがおっくうになる。

- ・対策▽ 係としては、それに対して次のようなことをやってみたらどうかと、考えています。
- 1. 書名一らん表を作ってお配りする。
- 2. 貸し出しカードを作ってお配りする。
- 3. そして、それによって、子どもたちを通じて借りることができるようになる。
- 4. 図書委員や、事務局(いすれも仮りの名)などを作って、貸し出しの世話をする。
- 5. 読書感想文や本の紹介などを会報にのせて、関心を高めてもらうようにする。

- ・お願い▽ これらの問題や、対策などについて、更に、どしどしご意見をお聞かせ願ひ、よりよい、そして、もっとよく利用できるようにする。

文化部のあゆみ

文化部

文化部三十七年度間のあゆみについて、去る二月十五日部会を開催、部員の反省と希望を出しあつた結果、次のようないろいろなきがきられました。

- その中には互いに矛盾するような声もありますが、それはそれなりに正直な反省と、来年度に対する希望の声として、意のあるところをおくみより願ひたいと思ひます。
- 一、先進校視察旅行について A. PTAの自主的行事としての性格をはっきりさせ、文化部を中心として、行先・目的等を自分たちでえらび、報告責任を依頼して、会報に記録した点はよかつたが、もっと効果をあげるためには、事前の研究をもう少し早くから、資料等を集めてやっておく必要がある。
- B. 「先進校」という呼び方は

用でできる文庫になるよう、皆さんの協力を願ひします。

希望

いろいろの意味で面白くない。「会館研修旅行」とした方がよい。また、同じ意味で視察目標を学校と決めず、会員の教養向上のために役立つ所なら、博物館、工場、その他どこでもよいのではないかと。何か学校やPTAで欲しているものがあって、それを既に持っている他の学校を見に行つて、それを取り入れるためのPRをするための旅行のような時がある。いってそのこと、金のかかる旅行などやめて、もっと有意義なことを考えたらどうか。

二、歌声会について
A. 文化部の仕事の一つとして歌声会をとりあげたことはよかったが、その運営の主体や方法がはっきりしていなかったために、独立した一部なのか、文化部の中の一パートなのか、はっきりしなかった。最初は、町内PTAの指導員の方などに働きかけたりして、一種の義務感で百何十名も集まり、その後は尻つぼみで、二、三十名になるという極端な状態では、決してほめられない。もっと運営の主体や組織をはっきりさせる必要がある。

B. とにかく年間を通じて、歌

声会を持續しての勉強を通じて、父兄の教養向上と親密感を増すことに努力された當事者や、指導に当たられた先生方には敬意を表し、感謝すべきであるが、同時に、どんな歌をどういうふうに通強しているかというふうな、具體的なPRをもっとやってもらったら、もっと少しく多くの人の関心をひけたのではないかと。

三、会報について
A. 一方に偏せず、個人の主観に流れず、だれにでもわかるようにという、編集のむずかしさはわかるが、一、二号に關する限り、どうも表面的な報告書の感じがする。もっと会員の生の声を、直接ひびかせてほしい。

B. 文化部としては、会報は一番大切な仕事だと思ふ。それだけに、内容の充実には一そのの研究が必要で、時には外部からの声もとりにれたらどうか。

文化部会の反省の中で、会報としては、もっと会員の率直な意見をその中に、反映させるべきだということになって、会員の多数の方々から案を差し上げた結果、

峰友善代治、石橋文六、浜田政利、池田清徳、芥孝夫、水江幸徳、広瀬フニ子、川口ナツ子、菅藤校長、村田教頭、今井、牟田、上田、松本、田中、古賀ス式見、山下、菅崎の諸先生方に編集委員の本田巻里部長、公光副部長(司会)広瀬フキ子副部長、山本篤五郎、下田先生方の出席を得て、文化部主催で、標題の懇談会を約一時間半にわたって催しましたので、要点を抄録してお伝えいたします。

一、運営について
1. 金のかからない育友会として育てていくべきだ。特に一部の有力者の声で運営されることのないように、お互いに勉強して、本心に民主主義のルールに合った運営を、更に続けていくよう努力すべきだ。

2. 育友会は、寄附集めの教育後援団体ではない、やむもす

ると、寄付金集めが競争になると学校差をますますひどくし、妙な結果を生ずるようになる。全市的に必要なものは、連合育友会の名で陳情し、公費負担の原則は、もっとはっきりすべきではないだろうか。

3. 1. 2. の点はよくわかるが、今の国、県、市の財政の現状では、どうも、思うようにはなかつたのではないだろうか。

4. 現状は余りにも、会員が、学校なり、役員会にまかせきりのような気がする。もっと自主的運営ができるように、全会員が意識して、参加すべきではないだろうか。出席率の向上は期せずしてできる。

5. 母親のみの会でなく、父親も、もっと積極的に参加すべきではないだろうか。父親がたまたま出て、発言すると、すぐに役員にならされるので出席しないという声のあることは、会のために悲しむべきことだと思ふ。

6. 隣接二、三町内が、もっと筒の連絡を密にして、協力し合つたら、どうだろうか。

7. 町内での、他の民主団体と

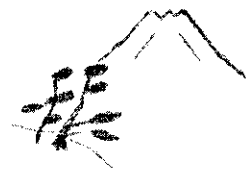
のつながりを密にして、すべての協力の中で、子どもたちを育てあげべきではないだろうか。たとえば、町内会、婦人会、青年団など……

8. 連絡組織については、機構をはっきり細分化して、班組織を充実させたらいのではないだろうか。

9. 各種会員に出席の場合、まだ「みえ」があつて、それが出席をじゃましているのではないだろうか。

二、先進校視察について
1. もっと市広の研修旅行的見方をしてはどうか。
2. 三分の二が勉強というぐらゐに、視察に重点をおいてはどうか。
3. 行く前に、事前の勉強をし、視察などをはっきりして行くべきだ。
4. 結果をさらによくするため、視察したねらいについての専門家をまねいて、講演会をしたらどうか。

三、睦について
1. 親の子どもの睦についての勉強が、もっともっと大切だということを実感すべきだ。
2. 戦後、子どもの睦がおちていゝ。一般に粗野で、こころづかいやあいさつなどが悪い。



その点については、
 ① 基本的な態については、頭からしつけなければいけない。
 ② ①のようにすると、東、表の人間を育てることになるので、子どもに是非納得させてやらねばならない。
 の二つの意見が出た。
 態について特に家庭教育にまつところが大きい。
 親を見ならった事例があるので、まず、親が手本をみせるべきだと思う。

基本的な態の内容なり、限界とか、あるいは納得できるようにするのも、果たして親の指導の手がそこまでできるか、など問題はたくさんあると思うが、要は親がお互いに勉強し合うことではないだろうか。

四、講演会について

子ども心理や態、並びに親の教養を高める意味からも、講演会を実施してはという声が出た。
 講師は、外部のみでなく、学校職員や会員自体からでも選んではどうだろうか。
 同時に「テーマ」をきめて、討論会や話し合いをして、広く会員に聞いてもらってはどうか。

五、両親学校について
 数多くやって、親と先生方との結びつきを深めてはどうか。町内もある。



校医生活二十八年

校医 樋口正規

ちの頃は食しなかった。日本国民が貧乏しく衰れに見えた。子どもたちはみずぼらしく、袖はちぎれて、寒さに震えていた。女兒の髪にはシラミがわいていて、先生方は、のみ取り粉をかけて、新聞紙の上に払い落しておられた。男児は介體に極まされ、ばりばりと体中をかいていた。一月も入浴しない子どもが何十人もいて、顔やえり首には赤黒いあかか推っていた。あの先生は、下田湯に交渉して、これらの子どもを無料で入浴させた。トラコーマも殆んど半数近くを占めているし、蛔虫、続虫、十二指腸虫も蔓延していた。私の専門の盲腸領域でも、慢性中耳炎の治療を怠っているため、高度の難聴児が目立った。また、親たちも主治に追われて子供を見守る余裕もないため、百日咳の除去や、鼻の掃除等全く放任されていて、耳鼻喉科罹病率は高度で、無病とされるもの

は僅かに一割であった。
 小国校長は、学校衛生に対して強い関心を示して居られ、他に先んじて内科、外科、眼科、耳鼻科と各科専門の校医を嘱託され、児童の健康増進をはかれたので、その業績を認められた学校衛生の模範校として知られるようになったのであった。
 その後代々の校長先生も学校衛生に多大の努力を続けられたので、三小の児童の体位は向上し、罹病率も著しく減少したが、戦争、ついでに敗戦という苦難な時代に遭遇し、食生活の低下や環境の悪化と共に、またもや児童の体格、栄養状態は低下し、体位において一年乃至一年半の遅れをみるに至った。しかし、朝鮮動乱を契機として、我が国の産業界は次第に発展し、最近数年間の経済成長は先進国の目をみはらすものとなった。健康改善せられ、衣食に関する限

急いで上向すべしとて、茶菓代として、出席率の向上と、運動網をはっきりして成功している町内もある。

今日二十八年の校医生活は回顧する時、時世の変遷を感慨に反映する児童たちの姿を見て、一喜一憂した当時のことが、昨日の事のように脳裡に去来するのである。
 果たして、一年間痛くだろうかと、危惧の気持ちで見守られていた私たちの会報も、やっと第三号を皆様方にお届けできます。このたびは、この一年間の反省や会の運営その他について、できるだけの「まなまの声」を掲載することに努めました。その間の皆様方の協力と声援を感謝いたします。



編集後記

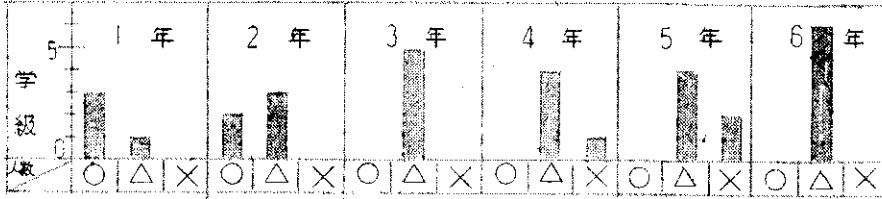
会報そのものについては、いろいろ問題もあろうと思えますし、(本号の)部会や個人も出ておりますが、この会報の皆様方も、ふたにお考えになっておいてのむきもあるのではないかと思えます。唯々今年からはじめて、私たちの手で編集から発刊まで

した事にせめてもの奮発を見出したいものだと思います。
 会報名については、毎号皆様方におねがいし、二、三出ておりましたが、本年度のものができませぬでした。新年度こそ私たちの会報にふさわしい、立派な名まえをつけて下さい。会長賞が泣いています。
 ☆一見ガリ刷りで食弱そうに見えるパンフレット、その名は「三小青友会報」、一旦、文字に目を落すと、私たちの成長の課程がうかがえる。
 よく読み、よく言えよう。
 やつと今、よろこぶべきではないかと、私には胸を打つ「感」をもち、青友会のシンボルにふさわしいものに育てよう。仲はさう。
 みんぬの手で！
 年間の皆さん方から寄せられた、ご協力に感謝いたしますと共に、新年度は更に充実し、より立派なものとして育てられますよう、一層のおねがいをいたします。

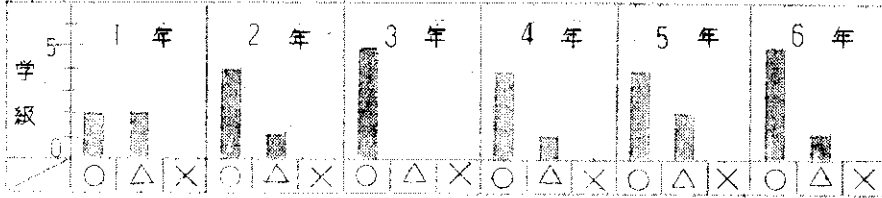
本年度の編集委員は、谷洗、山本篤五郎、広瀬ウキ子、相川昌子、上田富子、下田文彦でした。
 編集係

副 東 村 進
 印

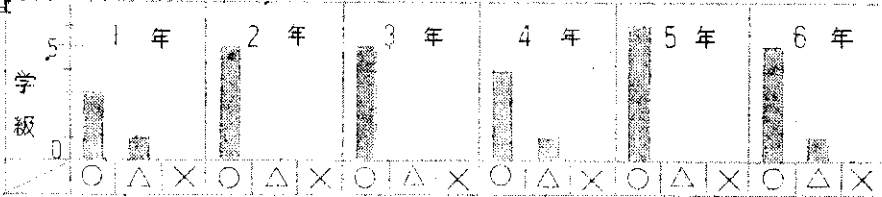
1. 学習はよくできましたか。



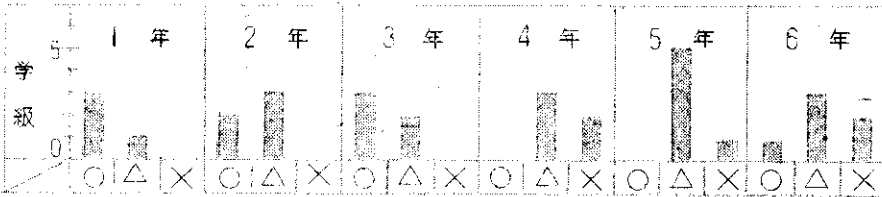
2. おてったいはよくできましたか。



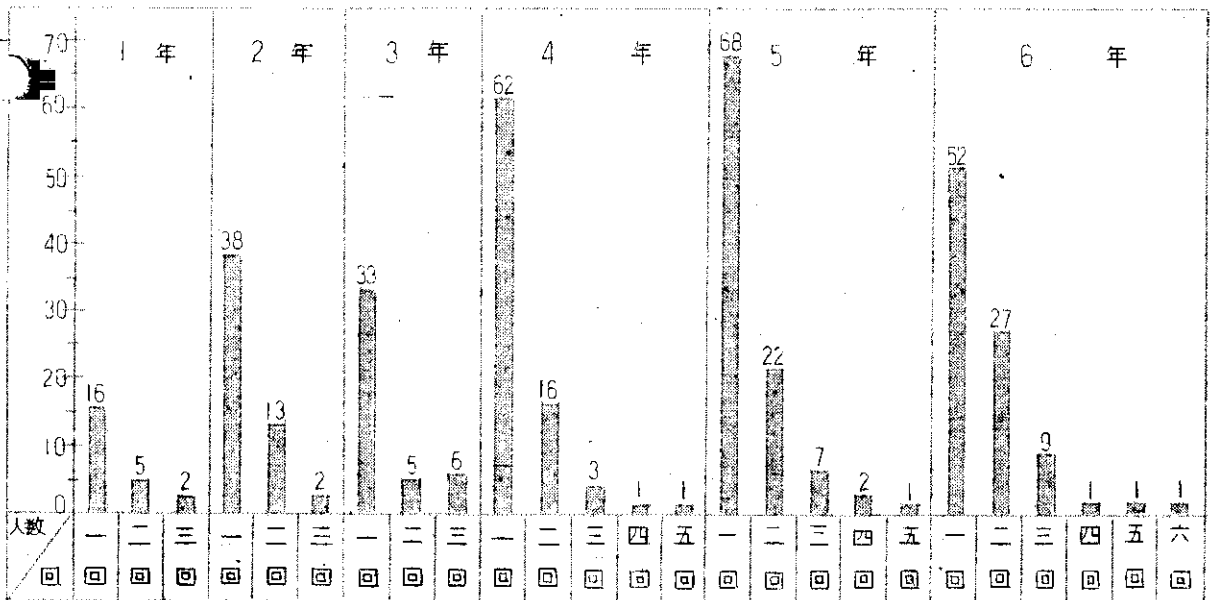
3. 夜あそびについて。(5時までには家へかえる)



4. テレビの見方(テレビは8時ごろとし、夜おそくまで見ない)



5. 映画(許可映画以外)に行った回数と人数



調査人員

()は学級数

- 1年 (4) 205名
- 2年 (5) 223名
- 3年 (5) 244名
- 4年 (5) 248名
- 5年 (6) 274名
- 6年 (6) 280名

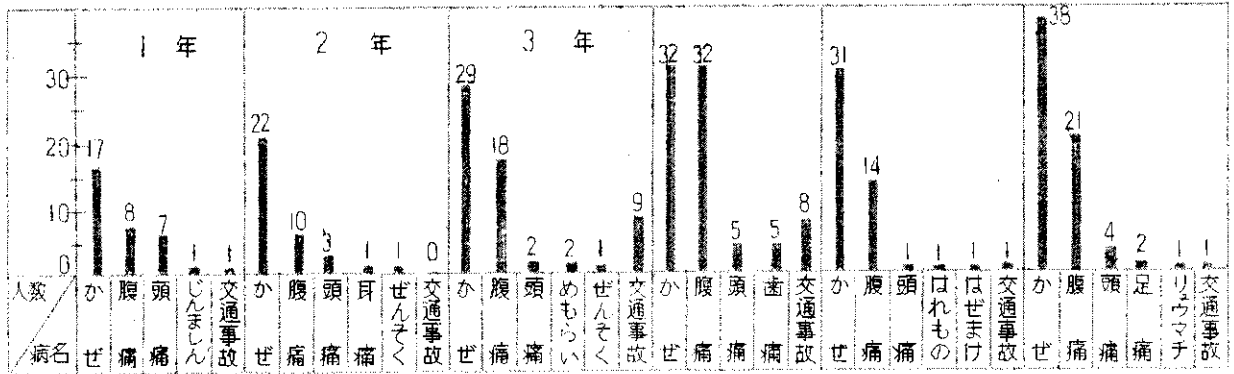
○ よくできた

△ ふつう

× よくなかった

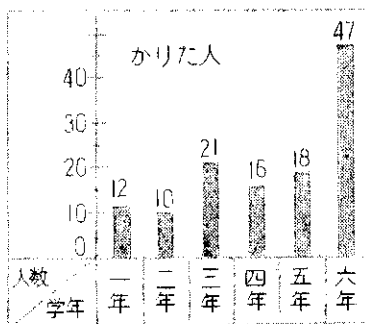
6. 健康安全について

○ 病気にかかった人数と、かるい交通事故



7. 学校図書 of 貸しだし

○ かりた図書 (のべ冊数)



学年	人数
1年	20
2年	14
3年	58
4年	35
5年	45
6年	97

8. おとしだまについて

○ もらったおとしだま

学年	円
1年	103,810円
2年	117,857円
3年	147,026円
4年	162,093円
5年	163,285円
6年	198,386円

○ おとしだまよりの貯金

学年	円
1年	57,537円
2年	55,354円
3年	64,100円
4年	78,455円
5年	76,488円
6年	88,588円

* 使途のおもなもの、学用品、図書、おかし、運動具、おもちゃ、衣類、娯楽(映画など)